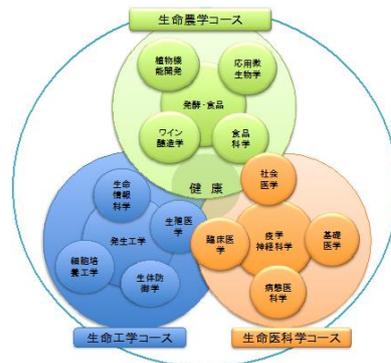


平成30年4月

■4月1日（日）統合応用生命科学専攻がスタート

平成30年4月、統合応用生命科学専攻（Integrated Applied Life Science：iALS）が11名の新生を迎え、スタートしました。発酵工学、先端脳科学、ワイン科学、応用微生物学等の特色ある分野において博士課程の教育を展開してまいります。



■4月3日（火）学生表彰実施（学部長表彰）

本学部では、優秀な成績を収めた学生及びその行為が社会的に高く評価される等、生命環境部学生の模範となりうると認められた学生に対し学生表彰を行っております。

平成29年度は32名の学生が対象となり、2～4年生24名の表彰を行いました。（卒業生の成績優秀賞8名については3月23日に表彰を行いました。）



■4月5日（木）新入生ガイダンス実施

本学部に入学した新入生153名を対象に、ガイダンスを実施しました。



■4月6日（金）山梨大学入学式挙行

コラニー文化ホール（甲府市）において、平成30年度山梨大学入学式を挙行し、学部857名、大学院修士課程236名、博士課程62名、教職大学院の課程14名、専攻科16名の計1,185名が入学しました。

島田眞路学長は、ノーベル医学・生理学賞を受賞した本学卒業生・大村 智 博士の言葉『一期一会』を引用し、「目標も考え方も異なる学生同士で積極的に交流を深め、心を開いて語り合える友人をたくさん作って欲しい」「スポーツ・読書・旅行・芸術など、専門以外の分野にも興味を持って教養を深め、人間としての豊かさを培って欲しい」と式辞を述べ、入学生を激励しました。



学長祝辞



新入生代表挨拶



山梨大学合唱団



新入生の皆さん

■4月6日（金）平成30年度 後援会総会開催

平成30年度入学式終了後、平成30年度生命環境学部・大学院医工農総合教育部生命環境学専攻後援会総会を、井上副会長様をはじめとした81名の会員の皆様方に参加いただき開催しました。

黒澤生命環境学部長・生命環境学専攻長の挨拶、生命環境学部等役職員の紹介に続き、平成30年度の後援会役員を選出を行いました。議事としては、平成29年度決算報告(案)、平成30年度事業計画及び予算(案)について審議しました。



■4月7日（土）・8日（日）山岳科学特別教育プログラムがスタート

本学では平成30年度から、筑波大学・信州大学・静岡大学と連携し、日本初の山岳科学を学ぶことに特化した大学院修士課程「山岳科学特別教育プログラム」を開設し、同プログラムを大学院生命環境学専攻地域環境マネジメントコース内に設置しました。



静岡大開催「山岳科学概論A」の様子。



本プログラムでは、遠隔講義システムの導入により、本学キャンパスに居ながら、他大学の講義を受講できるようになります。

■4月13日（金）インターンシップ・ガイダンスを開催

企業・官公庁等へのインターンシップ参加を希望する学部2・3年生を対象に、インターンシップ・ガイダンスを開催しました。ガイダンスでは、谷本教授（地域食物科学科）による概要説明に続き、キャリアセンターの山田キャリア・ディレクターから就職活動のスケジュールやインターンシップの意義について話がなされました。約200人の参加があり、インターンシップに対する関心の強さを感じられました。



■4月中～下旬 新入生オリエンテーション・交流会・合宿など実施

新入生を対象としたオリエンテーション・交流会が各学科ごとに実施されました。学生相互及び教員との親睦が深められました。



平成30年5月

■5月14日（月）スウェーデンから博士課程の学生が来学

スウェーデン・Swedish University of Agricultural Science から博士課程の学生の訪問がありました。発酵工学研究センター、ワイン科学研究センターなどを見学をしました。



■5月23日（水）米国・アイオワ州の大学生が来学

米国アイオワ州スー市の Morningside college より、学長から学生までという大代表団の訪問がありました。

御園生教授がグリーンカーテンについて説明。



■5月24日（木）平成30年度山梨大学大村智記念基金奨学金授与式を挙

甲府キャンパスにおいて、平成30年度山梨大学大村智記念基金奨学金授与式を挙りました。本学では、ノーベル医学・生理学賞を受賞された本学卒業生・大村 智 特別荣誉博士の「若者の学業を奨励したい」との強いご意向を踏まえ、「山梨大学大村智記念基金」を活用し、平成28年度から大学独自で学部学生に対し、返還不要の奨学金を給付しています。



■5月30日（水）マイナビによる就活 | Sガイダンスを開催

5月30日（水）、本学部の就職支援委員会主催による就活インターンシップガイダンスを開催しました。就職支援委員会は生命環境学部独自の委員会、マイナビの協力を得ながら学生の就職活動をサポートしています。今回はマイナビの講師から、インターンシップのタイプや企業の選び方など、具体的かつ分かりやすい説明を受けました。



約90名の学生が参加しました。

《5月・実習等の様子》



生命環境基礎ゼミ

サバイバルのための食糧調達について調べています。山歩きをしながら食べられる野草について調べました。



生命環境基礎ゼミの様子

味覚に与える温度や香りの影響について調べています。



3年生の学生実験

微生物を利用した実験を行いました。ヨーグルトを作成しPhと酸度を測定中。

ワイン科学特別コースのブドウ栽培実習



芽かき、ツルの誘引作業中です。



1年生の生物資源実習

小松菜とリーフレタスの播種を行いました。



納豆作成実験

色々な豆で納豆を作ってみました。匂い・味・糸引きなどを評価します。





環境調査実習の様子
河川生物のサンプリングと調査を行っています。



地圏科学実習の様子
試坑を掘り土壌断面を観察します。

試坑とは田畑の土壌調査をするために階段状に掘った穴のことです。



生物資源実習の一環の農場実習

小松菜・チンゲン菜の収穫と出荷作業、桃の摘果と梅の収穫をしました。



平成30年6月

■6月6日（水）山梨英和高校（SSH 指定校）1年生が研究室見学に来学



1年生17名が生命環境学部の研究室見学に訪れました。これは同校が平成25年度から文部科学省のスーパーサイエンスハイスクール（SSH）の指定を受けた「山梨初！女子中高一貫校における女性環境科学者育成プログラム」事業の一環です。

■6月22日（金）生命環境基礎ゼミの全体発表会開始

生命環境基礎ゼミは、一年生がいくつかの班に分かれ、それぞれ特色のある調査テーマを設定し、学部一年生全員の前で発表を行います。4月から調べてきた成果の発表に皆さん緊張気味でした。



《6月・実習等の様子》



ブドウ栽培実習 3 回目
摘心作業中です。
なかなか難しく、失敗しながら技術を習得していきます。



果実遺伝子実験
附属農場にて、接ぎ木実験・葉面積調査等を実施。

附属農場にて、応用栄養学の講義・実習

野菜の栽培・加工・栄養について横断的な理解が目標です。



平成30年7月

■ 7月3日（火）公募していた環境科学科ロゴマークの優秀賞及び佳作を表彰

本公募では、環境科学科卒業生の松山千春さんの作品が優秀賞に、同学科2年生の山中くるみさんの作品が佳作に決定しました。松山千春さんの作品に少しアレンジを加えロゴマークとして採用されることとなりました。表彰式では風間ふたば学科長から、表彰状と副賞が授与されました。



■ 7月19日（木）大村智記念学術館 完成披露記念式典を挙



甲府キャンパスにおいて、「大村智記念学術館 完成記念披露式典」が挙行されました。学術館内には、大村博士ゆかりの品物や、本学所蔵の歴史資料や研究成果などを展示しており、開館時間内であれば自由にご覧いただけます。

■ 7月19日（木）大村智本学特別栄誉博士・山中伸弥京都大学 iPS 細胞研究所所長による特別対談



大村智記念学術館開館を記念し、2階大村記念ホールにて「ノーベル受賞者が語る！～本音で語るノーベル賞への道～」と題し、お二人による特別対談が、島田学長の司会により行われました。

対談後、生命環境学部地域食物科学科ワイン科学特別コース3年の北原里子さん・医学部医学科6年の垣崎雄介さんが質問に立ちました。学生からの質問にお二人は丁寧に応じ、激励のメッセージを贈りました。



■7月19日（木）山中伸弥 京都大学 iPS細胞研究所所長が発生工学研究センターを見学

大村智記念学術館開館式および特別対談のために来学された山中伸弥 京都大学 iPS 細胞研究所所長が、発生工学研究センターを見学されました。

若山照彦発生工学研究センター長の案内でセンター内を見学された山中所長は、マイクロマニピレーター室において行われているクローン動物の技術や、フリーズドライ精子を用いた宇宙実験に大変興味を示されました。

若山センター長による説明に熱心に耳を傾ける山中所長。



発生工学センター前で記念撮影。学生との写真撮影にも気軽に応じて下さる山中所長。

■7月20日（金）ポルドー大学のジル・ド・ルベル教授による夏期特別講演会が開催

大村智記念学術館において、ポルドー大学ジル・ド・ルベル教授を招聘し、夏期特別講演会が開催されました。講演タイトルは「非ビニフェラ系ハイブリッドに対するフランスの関心—後退あるいはブドウ栽培の未来に向けた新たなるチャレンジか?」でした。例年にも増して多くの方にご参加いただきました。



■7月28日（土）生命環境基礎ゼミの発表終了



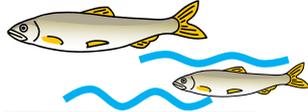
4月から取り組んできた生命環境基礎ゼミの発表会が終了しました。自分たち以外の発表にも熱心に耳を傾け、学科内外から活発に質疑応答がなされました。

《7月・実習等の様子》

地域食物科学科1年生の生物資源実習

小曲町の附属農場で、1年生の生物資源実習がおこなわれました。摘粒・笠かけ・袋がけとトラクターの実習をおこないました。





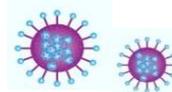
環境計測実習を実施

甲府市黒平（市民いこいの里周辺）において、「環境計測実習（河川環境観測）」を実施しました。河川の断面形状や流速、堰を用いた流量観測などをおこないました。

平成30年8月

■8月3日（金）有用微生物利用学の集中講義が開催

前期最後の集中講義、有用微生物利用学が今年も開催されました。毎年抽選となるこの講義は、発酵微生物・抗生物質など、燃料生産に役立つ微生物について学びます。今年も15名の選ばれた学生を対象に開講しました。



■8月4日（土）オープンキャンパスを開催

気温37℃を超える中、全国各地から多くの高校生の皆さんと保護者の方々にご参加いただき、盛況なうちに予定のプログラムを終えることができました。

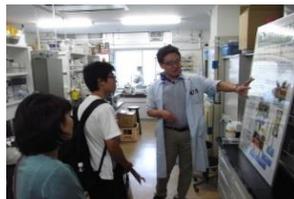
各学科では、学科紹介、研究内容紹介、施設見学、大学生活紹介等を行いました。



毎年学生にお手伝いをお願いしています。



年齢の近い学生たちには気軽に質問できます。



講義室や研究室で説明を受けることで、入学後の様子が具体的に想像できたかと思います。

■8月4日（土）平成30年度 後援会懇親会開催

生命環境学部S1号館318教室において、平成30年度生命環境学部・大学院医工農学総合教育部生命環境学専攻後援会懇親会を、山崎会長様をはじめとした19名の役員の皆様方に参加いただき開催しました。

当日は、学部ロゴマークの選考などを行った後、会員の近況などについて懇談し親睦を深めました。



後援会の皆様には、生命環境学域の為に日ごろからご尽力をいただき、ありがとうございます。

■8月6日（月）・7日（火）公開授業実施

山梨県の高校生を対象に公開授業「自然と社会の共生科学」を開催しました。大学に足を運んでもらうことで、山梨大学をより身近に感じていただけたかと思えます。



■8月10日（金）ワイン科学研究センター主催「ワインテイスティング講座」開催

甲府キャンパスにおいて、ワイン科学研究センター主催の国際ブドウ・ワインセミナー「ワインテイスティング講座」を開催しました。

フランス・モンペリエ農業科学高等教育国際センターからパトリス教授をお招きし、ブルゴーニュワイン4種類をテイスティングしました。



《8月・実習等の様子》



生物資源実習

山梨県立八ヶ岳牧場で畜産現場を体感しました。牛舎の清掃を体験、その後ドームファーム北杜で植物工場を見学。

環境調査実習

バクテリアを使って寒天平板培地に絵を描く、バクテリアアートを作成しました。



臨海実習

3年生を対象に、筑波大学の下田臨海実験センターにて臨海実習を行いました。プランクトンや磯周辺にいる生物を採集し、仕分け、観察しました。



平成30年9月

■9月5日（水）ベトナムで開催された国際学会で廣瀬さん真柄さんがポスター賞を受賞

大学院修士課程バイオサイエンスコース2年の廣瀬直樹さんと同1年の真柄和典さんが、ベトナム国家大学ホーチミン市国際大学で開催された国際学会に参加し、優秀ポスターを受賞しました。

この学会は、ベトナム国家大学の教授を中心に中国・韓国・日本の発生工学にかかわる研究者や学生が参加する学術大会で、生命工学科からは発生工学研究センターの若山照彦教授と大我政敏助教が口頭発表を行いました。大学院修士課程および博士課程の学生を含む約30名がポスター発表を行い、上位4名が優秀ポスター賞を受賞しました。



右から二人目が真柄さん、中央が廣瀬さん。

■9月18日（火）・19日（水）大学院特別教育プログラム「発生工学技術開発・実践」開催

清里高原・清泉寮及びキャンプ場（山梨県北杜市）において、大学院特別教育プログラム「発生工学技術開発・実践」リトリート（研修合宿）を開催しました。

今回は福岡秀興先生をお招きし講演をいただきました。学生による研究発表も行われ、活発な質疑応答が交わされるなど、有意義なリトリートとなりました。



■9月28日（金）第33回日本放線菌学会大会でポスター賞を受賞

本学科の山村准教授（応用微生物学）は、早川正幸副学長・理事（応用微生物学）・工学部の安藤准教授（高性能計算）とともに、放線菌コロニーの自動識別システムの開発に取り組んできました。その結果、第33回日本放線菌学会大会（武蔵野大学）でポスター賞を受賞しました。

本研究は生命環境学部と工学部の教員・学生が学域の枠組みを越えた融合研究であり、この賞はその成果のひとつと言えます。



左から工学部・安藤准教授、同・中島さん、山村准教授、早川副学長・理事。

■9月28日（金）生命環境学域の学生と教員とによる懇談会を実施

生命環境学部及び生命環境学専攻学生代表と生命環境学域教員との懇談会が実施されました。

学部ロゴマークの選考に続き、学科ごとにわかれカリキュラム、授業、資格等の様々な課題について討論しました。また、生活面や勉強に対するモチベーションの維持についてなど、幅広く意見交換をしました。最後に各学科ごとに討論内容を発表していただき、当日の予定を終えました。



黒澤生命環境学域長にご挨拶をいただきました。



FD委員会委員長の竹内先生に進行をお願いしました。



20数名の学生代表が参加。



学科ごとにわかれ、様々な課題について討論しました。

《9月・実習等の様子》

資源循環型ものづくり実習

植物の種や廃食用油からバイオディーゼル燃料を精製します。この日は栽培していたひまわりの種を収穫しました。菜園まわりの草むしりも全員で行いました。



生物資源実習

小曲町にある生命環境学部附属農場にて、サツマイモや小松菜の収穫をしました。また、県内の農業法人を訪れ、それぞれが持つ最先端農業について学びました。

平成30年10月

■ 10月5日（金）長野県長野西高等学校の1年生が来学

長野西高等学校（1年生）の学生24名が来学しました。

生命環境学部ワイン科学研究センターを訪れ、地域食物科学科の奥田徹教授（ワイン科学研究センター長）、山下裕之准教授より、学部および学科についての説明を聞きました。その後久本雅嗣准教授の案内により、センター内（分析室・ワインセラー）・ブドウ畑などを見学しました。



■ 10月12日（金）静岡県沼津高等学校の2年生が来学

沼津高等学校（2年生）の学生34名が来学しました。

環境科学科の田中靖浩准教授より学部・学科の説明を受け、その後研究室や実験・研究装置の見学をしました。



短い時間でしたが、研究室や実験装置を見学しました。

■ 10月16日（火）静岡県立富士高等学校の1年生が来学

富士高等学校（1年生）の学生40名が来校しました。

地域社会システム学科の田中敦教授より、理系3学科・文系1学科からなる生命環境学部の特徴を紹介していただきました。



将来の選択にお役立てください。

■ 10月19日（金）愛知工業大学名電高等学校の2年生が来学

愛知工業大学名電高等学校（2年生）の学生が来校し、うち10名が生命環境学部を訪れました。



地域社会システム学科の平井寛准教授より学部・学科の説明を受けたあと、大村智記念学術館にて、当日御来校されていた大村智先生のお話を拝聴しました。

大村先生のお話を聞くことができ、興奮気味の生徒たち。

■ 10月26日（金）微生物アートが“リケラボ”で紹介

3年生の「環境調査実習」で行われた微生物アートが、理系の人達を応援する情報コンテンツ発信サイト“リケラボ”に紹介されました。田中靖浩准教授のインタビューを交えながら、実際にスタッフの方が微生物アートを体験されています。



学生の作品です。

微生物の持っている色を生かしながら作成します。

《10月・実習等の様子》



生物資源実習

農場実習の様子です。
洋ナシの収穫、水耕栽培で
育てた小松菜の収穫・重量測定
などを行いました。



環境科学基礎実験Ⅱ

生物・地球科学分野の基礎
的な観察・実験を行います。
この日は土壌中の昆虫の密度
やその様子を観察しました。

平成30年11月

■11月2日（金）～4日（日）第16回 梨甲祭「笑おう～そこのあなたも笑いな祭～」開催

甲府キャンパスにおいて、第16回梨甲祭「笑おう～そこのあなたも笑いな祭～」を開催しました。恒例の「仮想パレード」やライブ・パフォーマンスで盛り上がる中、生命環境学部でもワインの試飲、ワイン豚を使った豚汁、焼き立てのパンの販売をしました。



笑いと言えば“おたふく”



毎年大好評のワインの試飲。



大盛況の豚汁とパン。パンの焼きあがりを待つ人も。



■11月3日（土）生命環境学部学生らが「ゆるキャン△」イベントの企画・運営に参画

山梨県身延町で開催された人気アニメ「ゆるキャン△」イベントの企画・運営に、地域社会システム学科観光政策科学特別コース田中敦教授のゼミ生が参加しました。日ごろの講義やゼミ活動での経験を活かしながら、アイデアの提案や調査企画に加わるなど多方面で活動しました。



■11月9日（金）菊地准教授のゼミが山梨県「第8回美しい県土づくり大賞」奨励賞を受賞

山梨県主催「第8回美しい県土づくり推進大会」で、菊地淑人生命環境学部准教授のゼミが、甲州市教育委員会と連名で「美しい県土づくり大賞」奨励賞を受賞しました。菊地准教授のゼミは甲州市教育委員会と連携し、地域の文化資源を活用した地域づくりの取組みを継続的に展開しています。その活動が評価され、今回の受賞となりました。

■11月14日（水）男女共同参画学術研究奨励賞受賞

環境科学科(国際流域環境研究センター)のSadhana Shrestha 助教が男女共同参画学術研究奨励賞を受賞しました。この賞は、優れた研究成果を挙げた女性研究者を顕彰することにより、研究意欲をさらに高め、将来の学術研究を担う優秀な女性研究者の育成及び男女共同参画を促進することを目的としています。



■ 11月15日（木）生命環境学部のロゴマーク決定

公募により生命環境学部のロゴマークが、地域社会システム学科3年生の土屋直人さんの作品に決定しました。11月15日（木）には、優秀賞 土屋直人さんのほか、佳作 地域食物科学科4年生の明石直輝さん、同じく佳作 大学院修士課程に在籍中の矢崎ことみさんの三人に、黒澤学部長より、賞状と賞品が授与されました。



優秀賞に選ばれた
土屋直人さんの作品。



佳作に選ばれた明石直輝さん、
矢崎ことみさんの作品。



黒澤学部長、評議員、各学科長列席のもと、授賞式が執り行われました。

■ 11月18日（日）馬術大会「第70回サムス准将杯争奪戦」で宮崎拓朗さんが最優秀選手に

全日本医歯薬学生馬術連盟主催「第70回サムス准将杯争奪戦」で本学馬術部が優勝し、年間ベストスクールを獲得しました。また、地域食物科学科3年の宮崎拓朗さんが優秀選手に選ばれました。



■ 11月27日（火）人気ガールズグループが“微生物アート”に挑戦

先日理系情報発信コンテンツ“リケラボ”で紹介された微生物アートを体験するために、人気ガールズグループ「ゆるめるモ！」が本学を訪れました。田中靖浩準教授のサポートを受けながら微生物アートに挑戦しそれぞれ個性豊かな作品を完成させました。



田中先生の説明に、熱心に耳を傾けます。



集中して作品制作中。



4人の個性が表現された
作品となりました。



アメリカの微生物学会ではコンテストも開かれています

平成30年12月

■ 12月7日（金）赤ワイン完成報告会開催



甲府市と本学とで共同開発した「赤」のスパークリングワインがこのたび完成し、甲府市役所にて完成報告会が開催されました。共同開発に携わった柳田教授は「色が濃くてロゼに近いワインに仕上がった。やや辛口でキレがあり、フルーティでバランスが取れている。ぜひ冷やして味わってほしい。」と解説しました。



これで平成30年3月に発売された「白」とともに、紅・白のワインが完成となりました。

平成31年1月

■ 1月17日（木）岸上教授の研究が研究成果最適展開支援プログラムに採択

岸上哲士教授（生命農学系）の研究課題「胚環境操作による糖尿病 DOHaDモデルマウスの確立と生産」が、国立研究開発法人 科学技術振興機構の研究成果最適展開支援プログラム（A-STEP）機能検証フェーズの「試験研究タイプ」に採択されました。

研究成果最適展開支援プログラムとは、企業等が技術移転の可能性が見込まれる大学等の保有する研究成果、知的財産の活用のため必要となる費用などをサポートする制度です。

本研究は、新規胚環境操作技術により遺伝的変異によらず、成体において糖尿病を自然発症する新規疾患モデルマウスの確立と実用化を目指しています。この事により、糖尿病の予防や治療の研究に大きな貢献が期待できます。

■ 1月23日（水）・24日（木）中国の瀋陽薬科大学の教員・学生が生命環境学部を訪問

瀋陽薬科大学の教員・学生8名が生命環境学部を訪れ、2日間にわたりワイン科学研究センターや各学部の研究室、発生工学研究センターなどを見学されました。



黒澤学部長から学部の説明を受けました。



ワイン科学研究センターではワインセラ等、施設見学もしました。



先生方の説明に熱心に耳を傾け、メモを取ったり積極的に質問をしたりしていました。



発生工学センターではマイクロコンピュータを用いたクローン技術など最先端技術に触れました。

瀋陽薬科大学とは、平成27年3月に交流協定を終結し、教員や学生の交流を続けており、平成30年4月には発生工学研究センターに留学生（大学院修士）が1名入学しています。

平成31年2月

■ 2月8日（金）卒業論文発表会

2月8日（金）卒業論文発表会が実施されました。朝9時から夜7時まで長時間に及びましたが、全員発表を終えることができました。



■ 2月9日（土）「働く」を考えるワークショップを開催

生命環境学部地域社会システム学科、田中敦ゼミ所属の学生グループが、夏ごろから、山梨県で活躍する社会人、学生を取材し、その考え方や働き方を紹介するガイドブックを制作するプロジェクトに挑戦してきました。

クラウドファンディングで資金を募り、また県内の起業・創業支援をしている様々な会などに参加し支援を求めるとともに、アドバイスをいただきました。

結果、計14名の方にインタビューし、クラウドファンディングも目標額を達成、1月にはガイドブックが完成しました。

2月9日（土）には、このプロジェクトの総括として目標としていたワークショップを開催しました。



■2月25日（月）平成31年度一般入試（前期課程）

生命環境学部募集人員130名に対し、442名が受験しました。



■2月26日（火）平成30年度 学生表彰式

課外活動・学術活動・社会活動等で高い評価を受けた学生が大学より表彰され、2月26日に表彰式が執り行われました。

生命環境学部では、「第3回富士吉田馬術大会 馬術 小障碍飛越競技A」で優勝した馬術部の牛込夏樹さん(生命工学科)、山梨県「美しい県土づくり大賞」奨励賞を受賞した高橋瑞季さん、岩田美耶さん(ともに地域社会システム学科)が表彰されました。



学長・学部長と一緒に。
(岩田美耶さんは都合により欠席)



■2月27日（水）フランス・モンペリエ農業科学高等教育国際センター・ボルドー大学が来学

当日は教員・学生など20名が来学し、山梨県内のワイナリーを見学後、本学ワイン科学センターを視察。その後開かれた懇親会では、活発な意見交換が行われました。



■2月28日（木）山梨大学国際ブドウ・ワインセミナー開催

フランスよりアラン・デロワール SupAgro 教授及びローレンス・ジニー・デニス ボルドー大学教授を講師にお招きし、「山梨大学国際ブドウ・ワインセミナー」を開催しました。

150名程度の定員を予定していましたが、雨天の中、席が足りなくなるほど大勢の方のご参加をいただきました。



デロワール教授



デニス教授



島田眞路学長も聴講されました。



熱心に聞き入る参加者。
熱気あふれる会場。

平成31年3月

■3月6日（水）平成31年度 一般入試（前期日程）合格者発表

生命工学科36名、地域食物科学科37名(うちワイン科学特別コース15名)、環境科学科29名、地域社会システム学科50名(うち観光政策科学特別コース7名)、合計152名の合格者を発表しました。



■3月12日（火）平成31年度 一般入試（後期日程）

3月12日（火）に一般入試後期日程が行われました。生命環境学部では、20名の定員のところ134名が受験しました。

■3月13日（水）生命環境学部 木村真由さんが「グローバル人材育成プログラム」初の修了生に

「グローバル人材育成プログラム」とは、学内外での体験型講座やボランティア活動、海外インターンシップなどポイント制のプログラムで、卒業時まで所定のポイントを獲得し終了要件を満たした学生に修了証が授与されます。生命環境学部4年の木村真由さんは、このプログラム初の修了生として修了証書が授与されました。



■3月18日（月）平成30年度 後援会役員会開催

山崎会長様をはじめ24名の役員の皆様方に参加いただき、平成30年度決算報告（案）、平成31年度事業計画及び予算（案）、役員選出等について審議しました。また、役員会に先立ち監事による会計監査を実施しました。



■3月20日（水）平成31年度 一般入試（後期日程）合格者発表

生命工学科6名、地域食物科学科7名、環境科学科5名、地域社会システム学科8名、計26名の合格を発表しました。



■3月20日（水）平成30年度 卒業式、修了式挙行

卒業式、修了式が、コラニー文化ホールにて挙行されました。

生命環境学部からは143名が卒業、大学院修士課程生命環境学専攻からは36名が修了しました。卒業式では生命環境学部2年の山崎萌音さんが、在学生を代表し送辞を述べました。



島田眞路学長は「自分を信じ、勇気をもって自らの人生を紡ぐと同時に、社会をよりよくするという使命感をもって生きてほしい」と式辞を送りました。

以上、詳細は、山梨大学「生命環境学部」ホームページをご覧ください。

<http://www.les.yamanashi.ac.jp/>